

えりも町議会

議会だより

平成29年8月1日

No.22



P 2 平成29年度6月定例会

補正予算・条例改正他

P 3～6 一般質問

一般質問 4名 9件

P 7 議員研修報告

P 8 先進地行政視察報告

豊頃町「肥育豚生産施設」本別町「人工透析施設」

P 9 所管事務調査報告

えりも高校グラウンド・森林基幹道えりも線視察

P 10 「この人に聞く」

えりも町商工会 青年部長 川崎 優慶さんにインタビュー



えりも町議会第2回定例会

補正予算

◎一般会計（歳出）

・ 複合施設設計委託料 3500万円

・ 防犯灯LED化のための調査料 799万2000円

・ 中央保育所屋根塗装工事 480万円

・ 企業誘致のための土地購入費 6000万円

・ 優良肉用繁殖素牛導入事業 2400万円

・ 消防第5分団詰所新築工事及び消防旧第5分団詰所解体工事 2328万円

・ 庶野放課後児童クラブ整備工事 1200万円

◎国民健康保険特別会計（歳入）

・ 一般会計繰入金 2000万円

人事

◎日高東部消防組合議会議員の選挙

川村 一治 議員
※欠員補充のため

◎固定資産評価員の選任

脇坂 祐輔 税務課長
※人事異動に伴うもの

◎農業委員会委員の選任

東洋 藤井 隆宏さん

東洋 神田 隆人さん

歌別 佐々木 克也さん

笛舞 能登 浩さん

大和 石川 昭彦さん

大和 沼舘 信夫さん

歌別 寺井 文秀さん

東洋 高橋 祐之さん

本町 中村 幸子さん

※現委員の任期満了によるもの

◎副町長の選任

泉 紳一 前総務課長

◎監査委員の選任

小関 孝雄

前選挙管理委員長

条例改正

◎国民健康保険税条例の改正

低所得者に対する国民健康保険税の軽減措置の対象となる世帯の軽減判定所得の改正により低所得者の負担軽減を図る

(例)

(1) 5割軽減世帯

(被保険者1人の場合)

軽減判定所得

59万5000円

↓ 60万円

被保険者1人増すごとに

26万5000円加算

↓ 27万円加算

(2) 2割軽減世帯

(被保険者1人の場合)

軽減判定所得

81万円 ↓ 82万円

被保険者1人増すごとに

48万円加算 ↓ 49万円加算

総合整備計画

1 辺地を構成する町村又は字の名称
えりも町字えりも岬

2 公共的施設の整備計画

・ 教育文化施設

えりも岬小学校校舎・体育館暖房機更新工事

1890万円

教室・体育館の暖房設備の老朽化に伴う整備

・ 飲用水供給施設

導水管更新工事

2176万円

老朽化により破損・漏水している導水管の更新

・ 学校給食施設

えりも岬小学校給食配送車両購入事業

669万6000円

平成30年度からえりも岬小学校で給食を開始するため、調理を行うえりも小学校からの配送を行うための車両を購入

一般質問

一般質問は、議員にとって、住民から重大な関心と期待を持たれる大事な議員活動の場です。町政全般にわたって執行機関に疑問点をただし、所信の表明を求め、議員自らの政策提言を行い政治姿勢を明らかにするものです。



鈴木勇高議員

問 水産生物の増殖事業について

問 鈴木 議員

答 適時対応・検討している

① さげ・ます増殖事業
各種水産生物の増殖を図り、漁業者の収入を増加、安定させるため、次の3点について実施する考えがないか。

業の新たな適地（小河川）調査
② 貝類の適地調査と実証実験
・ホタテ、ホッキ貝に関する稚貝の放流と、東洋、歌別漁港での吊るし養殖の実証実験。
・百人浜海岸の浅海を掘削し、シジミをかごに入れての養殖実証実験

③ 目黒と百人浜沖合に第二貝殻島を造成し、コンブ養殖事業の実証実験を行うことについて町の考えは。

答 産業農林課長

1 点目のさげ・ます増殖事業の新たな適地調査の実施については、現在えりも町周辺で、日高管内さげ・ます増殖事業協会において目黒の猿留川で700万尾、歌別川で680万尾、ニカンベツ川で210万尾のサケ稚魚の放流を実施している。また、地域間格差是正

のため東洋漁港から140万尾、ゼニガタアザラシ対策としてえりも岬漁港から200万尾を海中飼育後に漁港より放流している。

新たな適地調査の実施ですが、庶野のシトマン川において、日高管内さげ・ます増殖事業協会の独自調査として、2015・2016年に各20万尾のサケ稚魚の試験放流を行っており、2019年度以降に帰ってくる予定

ですので、その状況を調査し再生産につながる河川ならば放流を継続したいと考えている。そうで、百人浜を流れるアアツ川等の3河川についても、今後順次試験放流を検討していくので、ご理解願いたい。

2 点目の貝殻の適地調査と実証実験については、えりも町とえりも漁業協同組合で構成するえりも栽培漁業振興協議会において、貝殻について、漁業者から要望のある2種の貝殻について取組を行っている。まず、エゾバイ（豆ツブ）については、漁業者が集めた母貝を飼育し、水槽内で産卵させた後にその卵塊の放流を実施している。また、近年漁獲量が減少しているエゾボラ（真ツブ）については、北海道大学及び水産試験場との共同研究により種苗生産に向けた飼育環境の検討や年齢及び成長について調査を実施している。

えりも町は、外洋に面しているため、漁港内においても波の影響を受けると、静音が保てない時もあるので、漁港内での貝類の吊るし養殖は適さないと考える。

しかし、今後も、浜の声を聴きながら、えりも漁業とも協議し、その他の魚介類についても、必要や要望があれば、調査や実証実験

等について 取り組んでいきたいと考えている。

3 点目 えりも町内では、現在、コンブ漁資源の維持増大と安定した生産を目的に、えりも漁業協同組合が実施主体の水産環境整備事業や各実行組合が事業主体の水産多方面機能発揮対策事業により、雑海藻の駆除を主体としたコンブ漁場の整備を実施しており、現時点では第二貝殻島を造成してのコンブ増養殖事業を実施する考えはない。

※鈴木議員から他に「未使用資源の活用と雇用の促進について」「町内経済の活性化について」の質問がありました。紙面の関係上、省略させていただきます。ご了承ください。

問 児童館の開設を

答 放課後児童クラブの開設で 役割は果たした



高松亮裕議員

問 高松 議員

近年、公園を整備してほしいという要望が町民から寄せられている。それに加え、天候に左右されず遊び、学べる児童館のような施設も必要と考える。

幼児らがおもちゃを使って遊んだり、絵本を読んだりしながら、保護者同士も子育てについての情報交換や交流のできる場所、小学生が遊びを通して年齢の差を超えて友達作りができる場所、そのような場所がえりも町においてには十分に整備されているとは言えない。既存の生活館を利用したり、数年後に建設される複合施設内に開設することができないか町としての考え

は。児童館は0〜18歳未満の子どもを対象とするという施設の性質か

答 町民生活課長

児童館は0〜18歳未満の子どもの対象とするという施設の性質か

ら、不特定多数の異年齢の子どもが集まることへの安全対策や、開設に義務付けられている専門職員の確保という運営面の課題がある。

児童館に求められている子どもの居場所づくりとしての役割は、放課後児童クラブの開設により、果たせたと考えており、生活館の利用等を含め現在考えてはいない。

しかし、幼児を対象とした子育て支援センターでは、毎週火・木曜日の限られた時間でのみしか対応できていないので臨時的に何回か増やすなど、児童公園の整備と併せ、今後検討する。

児童館は0〜18歳未満の子どもの対象とするという施設の性質か



子育て支援センターのおもちゃで遊ぶ幼児ら(中央保育所内)

問 認知症高齢者の早期発見と 治療の体制強化を

答 「認知症初期集中支援チーム」を 早期に設置する

させるなどの手を打てば、認知症の進行を遅らせることができ、普通の暮らしが続けられる可能性が高まると言われる。

① 認知症の疑いのある人をいち早く発見し、情報提供してもらっためにどのような取り組みをしていくのか。

② 発見後、速やかに介護、治療へと結びつけていくための体制をどう構築していくのか。

答 保健福祉課長

① 高齢者教室や広報を活用し、介護予防の正しい知識の周知・普及に努める。また、昨年から取り組んでいる、10分程度の質問で軽度認知障害を早期に発見できる「軽度認知障害スクリーニングテスト」

厚生労働省は、2025年には認知症の患者は700万人に達し、65歳以上の5人に1人は発症するとの調査結果を発表した。

認知症の兆しを見逃さず、その時点で医療や介護の専門家を介在

ねっと運動」の充実を図っていく。

さらに、地域などで高齢者や認知症の方、その家族の方に対し見守りや手助けをする「認知症サポーター」を養成するとともに、地域見守り協定による民間事業者等との連携により情報提供体制の強化に繋げていく。

② 認知症サポーター医や医療・介護の専門職である保健師など複数の職種からなるメンバーで構成され、対象となる方の家庭訪問や受診勧奨を行う「認知症初期集中支援チーム」を早い時期に設置し、このチームを核として可能な限り迅速な対応を図っていく。

「認知症サポーター」を養成するとともに、地域見守り協定による民間事業者等との連携により情報提供体制の強化に繋げていく。



ふまねっと運動に挑戦する参加者

問 デマンド交通の取組について



大坂庄吉議員

答 現状の公共交通の利用を 把握しながら今後検討

問 大坂 議員

デマンド交通は、利用者の要求に応じて運行する新しい交通の仕組みである。

近年、少子高齢化の急速な進展に伴い、移動手段の確保や買い物支援等のサービスと組み合わせた日常生活の利便性向上を図るため、導入を検討している自治体が増えはじめている。

このような、デマンド交通は住民の電話予約により予約があると、きだけ希望の場所へ希望の時刻に運行し、公共の乗降場だけでなく、自宅へも運行ができ、送迎が可能である。輸送密度が比較的低い地域での運行に適していると考えられおり、当町においてもこれから検討すべき課題だと思いが、このシステム導入について、どのような見解をもっているか。

答 企画課長

デマンド交通とは、予約があった時だけ運行する方式で路線バスとタクシーの中間的な位置にある交通機関である。

運行の形もいろいろあり、バス停で乗り降りを行い、予約のある場合のみ運行する方式や運行ルートやバス停を設けずに指定したエリア（地域）を巡回し、玄関から目的地まで運行するような方式など、他にも運行方式があり、それぞれ内容が大きく異なる。

町内には JRバスとタクシーが公共交通機関としてあるが、利用者の減により事業、サービスが縮減してきており、今後、利用される方々の要望に合わせるような公共交通機関の在り方を検討しなければならぬと考えており、デマンド交通も大変有効な方式と考える。



デマンドバスを利用する自治体も増えている。

問 ふるさと納税の今後について

答 納税額の3割になるように業者と協議

問 石川 議員



石川昭彦議員

えりも町がふるさと納税を始めて3年になり、全国の皆様から寄せられた納税額は10億円を超えている。えりも町の自主財源として貴重なものであることはもちろんのこと、町内業者の経営にとっても大きな金額になっている。総務省は返礼品の額を下げるように要請しているようであるが今後、町としてどのような方向で進めていくつもりか。

答 産業振興課長

10月のリニューアル時に返礼品額を、消費税と送料を別にして、

商品代のみで納税額の3割になるように業者の方々と協議して参りたい。また観光パンフレットを同封するなどして、えりも町に興味を持っていただけるように努力をしていきたい。



えりも産銀聖鮭のすじこ



鮭ジャーキー（チーズ入り）

問 肉用牛子返し制度について

答 事業を活用して増頭促進



問 石川 議員

制度の詳細について説明を求めたい。頭数の純増部分にはさらなる支援をしてもいいのでは。

答 産業振興課長

1年度1経営体に2頭を限度に、貸付期間は5年、1頭あたり60万円で貸付を行う。生まれた子牛を後継牛とするか出荷するかは自由とし、償還後は払下げとなる。



ひだか南部森組のチップ製造施設

問 林業振興について

答 複合施設でのボイラー導入

問 石川 議員

木質系バイオマスチップを町で計画している複合施設で使えないか。

答 産業振興課長

間伐材や林地残材の有効活用や森林所有者の負担軽減につながると思われるのでチップの生産に協力してくとともに、複合施設でのボイラー導入等を担当として提案していきたい。

問 地域公共交通の確保を

答 新たな公共交通を検討

問 石川 議員

現在の路線バスやタクシーは住民の足として機能していないのではないかと。新たな交通システムが必要ではないか。

答 企画課長

町としては既存の交通を維持することを目的としてきたが、高齢

化で免許を返上する方もいる中で、現状と利用者の要望が離れてきていると思う。買い物や通院を支援する公共交通を検討していかねばならないと考えている。



JRバスえりも駅

問 石川 議員

3月25日札幌市内においてえりも町内40歳未満男性9人と町外女性8人により婚活支援事業が開催されたが、その成果とこれからの取り組みについて伺いたい。

答 企画課長

3月の事業では参加者17人で4組のカップルが出来ました。今後参加者の意見を参考に、女性も含めた支援をさらに進めてまいります。

北海道町村議会

議員研修会

議員研修を終えて

川村 一治 議員

平成29年度「北海道町村議会議員研修会」が7月4日、全道144町村から議員・事務局関係者約1800名の参加のもと、札幌コンベンションセンターを会場に開催されました。

最初に『トランプ政権と日本経済―地域経済への影響は?』と題し慶應義塾大学経済学部教授 金子 勝氏が随所にユーモアを交え、持ち時間をオーバーする熱弁を振るわれました。TPP等多岐にわたる研究課題を洒落を多用しながら会場の笑いを誘い、経済は生き物で難しいと話されました。歯に衣着せぬ話は多少過激な部分もあったような気がしますが、聞き手を飽きさせない、自分のペースに引き込む話術はさすがプロだと感心させられました。

続いて日本放送協会解説副委員長 島田敏男氏が『日本政治の昨日・今日・明日』と題し、講演されました。冒頭、東京都議選の結果について触れておりました。今後国政にどのような影響を与えるか少しの時間ではありましたが話されておりました。

また、安倍首相の長期政権などスライドを使用しての講演でした。

今回は道内視察研修も併せて実施し、7月3日に十勝中央農場の養豚（豊頃町）・本別町国保病院の人工透析施設（本別町）の2か所を視察しました。この件につきましては同僚議員の担当となっておりますので、詳しくは触れませんが、当町と密接な関係があることから視察にも気合が入りました。両町の担当者の懇切丁寧な説明もあり非常に有意義な視察だったと思っております。

昆布漁も始まり、7月5日に解禁になった目黒、庶野地区では現時点（7月9日）で5日連続での漁、10日・15日と他の地域でも順次始まりますが全域での豊漁を願い、自分も陸回りに行っているので頑張らなければと気持ちを新たにしました。

札幌コンベンションセンターでの北海道町村議会 議員研修会



広大な土地の中にある繁殖豚施設を完全防備で視察。



先進地行政視察研修報告

豊頃町「十勝中央農場」



堆肥作成の様子

平成29年7月3日、豊頃町「十勝中央農場」にて視察研修を行いました。肥育豚生産基地は、総事業費が約6億円、建築規模は、建物1式約7,700㎡、敷地面積が約3haの広大な土地での生産となっております。また、視察は菌類の感染を防ぐため、ナイロンの防護ヤッケを着用しての視察となり、現場の環境としては周囲に民家はなく、農地のど真ん中にある状況で、心配されていた豚の糞尿の問題は場内浄化施設にて一度処理した後、堆肥に発酵させ、カボチャ農家等に販売しているとのことで、環境にもやさしいと感じられました。えりも町には肥育豚及び繁殖豚施設が建設される予定ですので、大変参考になり糞尿の問題もクリアーできたのではないかと思います。

本別町「国保病院人工透析施設」

続きまして午後より、本別町「国保病院人工透析施設」の視察研修を行いました。本別町役場庁舎にて、本別町長、本別町議会議長より、歓迎のご挨拶があり、人工透析施設の説明を受けました。施設設置の経緯や初期投資に掛かった費用、収益状況など、様々な情報を教えて下さいました。その後、実際に国保病院で視察を行い、病院規模が大きく、医師が5人体制での診療となっております。人工透析の説明を担当の医師より受け、現在透析専用ベット数が20床、患者数が30名となっているとのことでした。えりも町でも人工透析の患者さんが18名いますので、施設の設置、医師の確保等、検討していかなければならない問題だと思います。



本別町役場にて人工透析導入の説明を受ける



国保病院人工透析施設にて医師の説明を受ける

人工透析施設を見学、最新の機器が設置されていました。



所管事務調査

総務文教常任委員会 委員長 渡部泰
副委員長 笹谷廣喜 委員 川村一治
鈴木勇高 橋本維応
産業民生常任委員会 委員長 大坂庄吉
副委員長 平野正男 委員 上野勝廣
石川昭彦 高松亮裕
議長 成田一人

調査日 平成29年5月29日（金）

えりも高校グラウンド改修工事について



えりも高校グラウンド

施工前は、陸上トラック部分の水はけが悪く、雨が降った後は水たまりができて数日間使用することができない状態にあり、また、インフィールド内もサッカーを行うには凹凸が多くプレイに支障をきたしていたことから、これら解消を図るために改修工事を行った旨、担当課から説明を受けた。

陸上トラック部分は、土の入れ替えや暗渠管排水工等により、雨が上がった後には少し時間をおけば使用できる状態となり、水はけについては問題がなかった。インフィールド内も、張芝にて補修が行われ、グラウンドの質はもちろんのこと、安全面の向上についても確認することができた。

なお、強風によりグラウンドの土が飛散しないよう、昨年より表土飛散防止ネットで土の部分の覆っているようであるが、現在の良好なグラウンド状態を一日でも長く維持するためにも、秋から春までの期間においては、引き続き、実効ある表土飛散防止対策の徹底について努められたい。

また、町内各学校においても効率的に維持・改善を図り、良質で豊かな教育環境の確保と提供について望むものである。

森林基幹道えりも線改良事業（道営事業）について

本事業は、平成元年度から年次計画によって事業が進められ、既に総延長約19kmに及び全線が開通している状態にあり、過去にも数回にわたって調査を行ってきたところであるが、今回は、平成24年度から本事業の最終年度となる平成30年度までの実施状況等について、現地調査を行ったものである。平成24年度以降については、平成28年度完成の十三間橋と荻内橋の架け替え工事がメインに実施され、現時点においては、ふ化場から目黒墓地までの改良を残すのみとなっており、今年度は法面と路盤の改良工事を実施し、最終の平成30年度に簡易舗装を行う予定となっている旨、担当課から説明があった。シマフクロウ保護のため、工期が短く、子育て期間を除く8月下旬から12月末までしか工事が実施できない状況の中、次年度にずれ込んだ事業も一部であったようであるが、概ね計画通りに実施されており、今年度に実施を予定している工事についても、安全かつ速やかな施工を望むところである。

なお、本事業に直接関係のない項目もあるが、当該調査における委員会の所見をまとめたので、次の4点の対応について協議・検討願いたい。

- ①危険個所にガードレール（又はガードロープ）及び道路標識の設置を。
- ②観光客が多くなると思われるので、砂利道の凹凸がひどくならないうちに早めに整備することとし、簡易舗装ができるまでの間は特に配慮願いたい。
- ③民地であり対処は難しいと思われるが、道路脇の目立つ場所に多くの倒木があり、観光道路としての景観が損なわれており何らかの対応を。
- ④当町の基幹産業を支えるふ化場の停電対策として、倒木により電線が切断されるといった事態が生じることのないよう対策を。



森林基幹道えりも線 荻内橋

この人に聞く

えりも町商工会 青年部部长

かわさき まさよし

川崎 優慶さん



Q 経歴を教えてください。

A 誕生日 昭和57年9月8日 (34歳)

学歴 北海道苫小牧工業高等学校 (建築科) 卒業後、八戸工業大学 (建築工学科) 入学・卒業

趣味 たまにする読書
好きな食べ物 魚貝類 肉類

Q この職業 (建設) につかれた動機は・また 将来の展望、目標は。

A 小さい頃に建物が造られていく工程を見て、興味があつた。都会の技術だけにとらわれず、えりもの塩害・風に対応できる家づくりをして行きたい。

Q 商工青年部の活動についてどうお考えですか。

A 最初は商工会青年部とは何をやる場所なんだろうと訳も分からず入部し、お祭りだけを盛り上げていけばいいと思いつつ活動していました。活動していく中で、会社に対する考え、経営の仕方を勉強させていただき、また、他町村の人との交流やえりも町に対しての色々な参加協力・貢献等を通じて様々な体験をさせて頂いていると思っています。

Q 町に対する役割、思い、感じる事、将来性 等々。

A えりも町は現在、人口減少や水産資源の減少、福祉施設等の充実化など様々な問題点があると思います。が都会と違い、えりも町ならではの資源は沢山あります。活用の仕方がわからないだけだと感じています。今は苦勞をしなければならぬ時期だと思いますが、えりも町の発展のため、子供たちが将来戻ってきたいと思えるような町になっていけたらと感じます。

今回の「この人に聞く」は、今年4月に就任したえりも町商工会 青年部 部長 川崎 優慶さんにインタビューしてきました。



灯台公園記念灯化粧直しの様子

編集後記

先日の議会議員補欠選挙にて議会議員になりました。橋本維広です。

5月臨時議会・6月定例議事を終えて大西新町長のもと、新事業が盛り込まれた予算となっております。

様々な問題がありますが、私もえりも町発展のため尽力していく所存です。

また、議会活動を皆様にご協力いただきありがとうございますので、今後ともよろしく申し上げます。

今年も7月5日、庶野地区を皮切りにコンブ漁が各地区一斉に始まりました。

暑い中での作業に成りますので十分、水分補給をして熱中症に成らないように気をつけて下さい。

(橋本維広)

広報広聴常任委員会

委員長

委員長

副委員長

委員

高松 亮裕

大坂 庄吉

川村 一治

石川 昭彦

橋本 維広

議会の動き

5月21日	えりも町消防訓練大会
5月22日	ワクワク森林づくり植樹祭
5月24日	議会運営委員会
5月26日	全員協議会 第1回臨時会
5月29日	二常任委員会合同所 管事務調査
6月16日	戦没者追悼式
6月23日	議会運営委員会
6月24日	札幌えりも会
6月30日	全員協議会 第2回定例会
7月3日	道内視察
7月4日	全道議員研修会
7月20日	広報広聴常任委員会